

(1) 観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進

現状と課題

- 観光と地域づくりを一体とする「ツーリズム」を一層推進するためには、地域資源[※]を磨き観光商品化するとともに、観光客の受け入れ基盤を整備し、市町村や観光事業者などとの連携を強め、国内外に戦略を持って売り込み、観光客を呼び込むことが求められています。
- 本県は、素晴らしい観光素材が県内各地に豊富にあり、来県された観光客の満足度は高いにもかかわらず観光地としての知名度が低いこと、また、連泊が少ないことが課題となっています。
- 日本人の価値観や生活様式の変化、そして、九州新幹線全線開業などの社会環境の変化による観光客の新しい流れを確実につかみ、柔軟に対応する戦略的な誘客策が求められています。
- 経済発展やビザの要件緩和などにより、今後、拡大が見込まれる中国や韓国、台湾その他のアジア地域など、国内外からツーリズム客を誘致することが求められています。

これからの基本方向

- 地域の自主的・主体的な活動により、温泉、歴史・文化、グルメなどのすぐれた地域資源に磨きをかけ、観光客のニーズに合った着地型旅行商品[※]として造成を図るとともに、観光ボランティアガイドなど観光人材の育成や観光客にやさしい案内標識の整備を進め、地域のイメージアップと観光客の満足度向上を図ります。
- 二次交通[※]に関する情報を一元化するなど利便性を高め、県内を広域的に観光しやすい環境づくりを進めるとともに、大分の魅力をさまざまな手段で効率的・効果的に国内外に発信することで本県の知名度を高め、観光客の誘致を促進します。
- 体験、学び、ふれあい、健康など新たな旅行ニーズの高まりを踏まえ、グリーンツーリズム[※]に代表されるような、地域の豊かな自然やさまざまな産業、個性あふれる生活文化に触れながら、ゆっくりと時間をかけて楽しめるツーリズムを推進します。
- 九州新幹線全線開業により、九州を訪れる観光客の増加が見込まれる関西圏に向けた誘客策を重点的に展開するとともに、宿泊客の連泊を促すため、広域観光ルートの形成を図ります。
- 国際的な会議や国際クルーズ船の誘致を図るほか、大分の魅力をさまざまな手段で効率的・効果的に国内外に情報発信することにより、国内都市圏及びアジア地域から広く観光客を誘致します。

主な取り組み

1 地域資源の商品化

- 観光と地域づくりを一体として進めるツーリズムの振興につながる取り組みへの支援
- グリーンツーリズムやエコツーリズム[※]、スポーツツーリズム[※]など、テーマ性を持った体験型ツアーの推進
- 農林水産業、商工業、福祉医療、環境産業などさまざまな産業を生かした研修・視察旅行の受け入れ促進
- 多彩な温泉巡りや特色ある歴史・文化遺産に加え、ジオパーク[※]認定を目指す地質遺産の活用など、本県の強みを生かした旅行商品の造成
- 本県観光商品について、市町村や観光事業者との連携を強め、新聞やテレビをはじめとしたマスメディアに加え、ホームページやツイッター[※]などのツールによる情報発信を通じて、国内外への戦略的な売り込みを推進

2 ツーリズム基盤の整備

- にぎわいのあるまちなみ整備などを視点においた計画の策定と、それに基づく都市施設（道路・公園）などの計画的整備
- 地域の魅力を伝える観光ボランティアガイドの育成支援や、複数言語による案内システムの整備などによる観光客の満足度を高める体制づくりと、それらの取り組みを通じた「大分のおもてなし」の気運の醸成
- 観光マーケティングの企画、立案に必要な観光統計の整備

3 九州新幹線全線開業など環境の変化に対応した新たな観光戦略の推進

- 九州新幹線全線開業で、時間的距離が短くなる関西都市圏からの誘客の促進に向けた、レンタカーやバス、鉄道などを使った九州を横軸でつなぐ観光ルートの形成
- 首都圏からは航空機、福岡圏からは自家用車など、各都市圏の特徴に応じてターゲットを絞った観光誘客の促進
- 国の観光圏整備地域への支援や、九州観光推進機構との連携などによる新たな広域観光ルートの形成
- 観光バスやタクシーを活用した県内観光地周遊コースの造成



国際クルーズ船の寄港
(別府国際観光港)

4 アジアを中心とする海外からの観光客の誘致

- MICE[※]（国際会議など）やスポーツ合宿、キャンプなど大規模団体の誘致
- 海外事務所や留学生などによる大分の魅力の発信
- アジアを中心とする国際クルーズ船などの誘致
- 温泉、グルメなどの観光資源とPET検診[※]などを組み合わせたメディカルツーリズム[※]の推進

目標指標

指標名	単位	基準値	年	H22年度		H27年度
				目標値	実績値(見込)	目標値
県内宿泊客数	人泊/年	4,749,470	H19	—	5,043,750	5,200,000
外国人宿泊客数	人泊/年	326,380	H19	—	363,160	390,000
グリーンツーリズム宿泊数	人泊/年	11,188	H19	—	18,694	23,600